

愛郷
無限

土屋館
どや
だて 通信

発行者：大曲・花火通り商店街
文責：辻

お問い合わせ：080-1265-7035
tuck-t@akita-tsujiya.jp

2014年07月18日号 NO.482

写真提供：大仙市

Subject：地元出身アーティスト集団の活動

今年の夏も大曲の花火（8月23日）をゴールに、17日の市民夏まつりから一週間の花火ウィークが始まります。大曲の花火をさらに盛り上げるべく、様々な他行事も開催日を移動して一週間愉しめる仕掛けにして3年、ホテル業界もこれまでは空いていた前泊者が増えている状況に、内外で定着してきたことが感じられます。

今年の特徴としては：

- 1) 街コン【ドンと恋！】が17日の夏まつりと同日に開催されます。
- 2) 獅子の会の200貫神輿が本年は他の祭りとの関係で、17日の夏まつりではなく22日の花火前夜祭での渡御となります。
- 3) 新しい仲間、地元出身で関西で活躍するアーティストの若者が、その仲間も大曲に呼び寄せ、街中で様々な美術活動を展開します。
- 4) 花火ウィーク前半には子ども専用の子どもまちゼミを開催
- 5) 22/23日には個人や団体から募集したメッセージ花火を打ち上げ

今後、市の広報紙や、魁新聞に折り込まれる大曲の花火特集号、ホームページなどで詳細は広報してゆきますのでご注目ください。

大曲の花火ウィーク ホームページ

<http://www.hanabi-week.com>

地元出身の美術大学生達の仲間が、期間中様々な芸術活動を展開してくれることになりました。自分たちが関わるアートの力で、地元を元気にしたい！と協働を依頼してくれました。

【重要】 求む！ 空き家を一ヶ月お貸してください！

その仲間の学生達が約10名ほど8月初旬から大曲入りして、この街で生活をしながらアート作品を作り、花火ウィークに併せて様々な企画・展示をしてくれます。代表は内小友出身で、関西の美術大学に通う若い女性アーティストです。

全てがボランティアであり、活動費も自分たちで工面しています。ただ一つ、彼らが寝泊まりする場所を探してもらえないかと相談がありました。一ヶ月もの間、ホテルに宿泊するだけのお金はありません。車も持っておらず、自転車移動なので駅前から数キロ程度の範囲内である必要があります。市役所にも検討いただきましたが市営住宅は使用目的が異なるということで貸してもらえませんでした。また空き家バンクという市の空き家情報データベースから空き家を探しましたが、結構な数の空き家はあるものの、

持ち主は個人情報保護のため教えてもらえず、知人を介して探しても、地元にはいらっしやらなかつたり、既に他界されていたりで、にっちもさっちも進まず。(人口減少・高齢化が待ったなしの状況下でコンパクトシティを目指すことは必須条件であり、則ち中心部への転居、また県外からの転居者を積極的に招致せねばならないはずなのに、市内の空き家に関する詳細情報を取得するのにこれだけ苦労するとは。。。。実際に探す立場になって初めて分かりました。これでは県外からの移住希望者など気軽に物件を探すことはできませんよね。空き家や空き店舗などを探しやすい情報データベースがこの街にはないので。移住を促進している・注力している地方自治体は、田舎暮らしの書籍にバンバン広告を出し、専門の担当部署を用意し、様々なサービスを提供しているのです)

商店街から自転車で通える範疇で、10名ほどが雑魚寝できる広さの空き家を1軒、お貸しいただける方を探しています。家具などは整っている必要はございません。光熱費(ガス・電気・水道)は全て自分たちで申請し、各々の会社へ支払いをするそうです。家賃は菓子折りの謝礼程度しか払えないでしょう。当然、来た時よりも美しくの気持ちで掃除もしっかり行います。

若い人達の夢と努力を何とか応援したいと思います。お申し出、或いは情報あればお近くの商店街役員までご一報ください。

宜しくお願い申し上げます。